

# Slovenia Monthly February 2018

## スロベニア マンスリー

発行：在スロベニア日本国大使館 発行日：2018年3月5日



### ～2月の主なポイント～

- 内政：** 政党支持率調査でシャレツ・カムニク市長率いる「Marjan Sarec List」党が首位  
**外政：** パホル大統領が韓国を公式訪問し、文在寅・韓国大統領等と会談  
ラブロフ・ロシア外相がスロベニアを訪問し、エリヤヴェツ外相と会談  
**経済：** スロベニアの2017年の経済成長率が5.0%を達成  
**軍事：** スロベニア軍、NATOによる戦闘準備評価に落第。参謀総長は辞任  
**社会：** 平昌冬季オリンピックで、スロベニアは銀1、銅1の合計2メダルを獲得

## 政治

### 【内政】

#### ●社会民主党(SD), 国政選挙に向けた選挙綱領を 発表【5日】

連立与党の社会民主党(SD)は、「自信にあふれたスロベニア」と題する選挙綱領を発表した。ジダンSD党首(副首相兼農林食糧大臣)は、スロベニアには秀でた分野がいくつも存在する一方で、医療サービス、司法及び労働分野において社会的不平等が存在すると説明し、同綱領における優先課題は、社会不平等の是正であると述べた。また、SDは、エアドーム製造企業「Duol」社のオライ(Mr. Dušan Olaj)社長を次期経済開発・技術大臣候補として紹介した。

#### ●日刊紙「Delo」による政党支持率調査【7日】

(2/1-6実施。有権者1009名対象)

Delo紙の世論調査によると、昨年11月の大統領選挙でパホル大統領を相手に善戦したシャレツ・カムニク市長率いる「Marjan Sarec List」党が、1月に第二位に降下した後、今月は19.5%で再び首位となり、第2位に連立与党社会民主党(SD)が13.1%、続いて野党民主党(SDS)が11.4%となっている。連立与党現代中央党(SMC)は7.8%で第4位に浮上している。

#### ●国民議会、少数民族保護の強化に関する法案を 採択【13日】

国民議会は、イタリア系及びハンガリー系少数民族の権利に関する法改正を承認し、バイリンガル学校における教員の言語能力の強化及び少数民族の高等教育や教員訓練への参加拡大が行われることとなった。ラコタ教育・科学・スポーツ副大臣は、少数民族教育の課題として、イタリア国境の学校では主にイタリア語で教えているが、北東部プルクムリエ地域では、ハンガリー語とスロベニア語両方を使用するバイリンガルでの授業を行っており、より高い言語能力が求められると説明した。



(ジダン社会民主党(SD)党首, 写真: Slovenske Novice)

## 【外政】

### ●セルビア首相のスロベニア訪問【1日】

ブルナビッチ・セルビア首相のスロベニア訪問に合わせ、両国間の合同閣議が開催された。同閣議において、両国首相は、旧ユーゴスラビアの承継問題の議論を加速させていくことで合意した。ツェラル首相は、「スロベニアの文化遺産及び公文書の返還を含む本件合意は非常に重要であるとし、ベオグラードに保存されているスロベニア映画のフィルム18本の返還を重視しており、スロベニアに返還されることを確信している」と述べた。これに対し、ブルナビッチ首相は、フィルムの返還は問題ないとの方針を示した。また、ブルナビッチ首相はパホル大統領とも会談した。

### ●政府、パレスチナ国家承認に向けた審議を延期【2日】

スロベニア政府は、パレスチナ国家承認につき、承認が与え得る影響に関する詳細な分析がなされるまで、本件にかかる審議を延期することを決定した。エリヤヴェツ外相によれば、審議は2月16日に再開される予定であり、今回の審議を踏まえ、政府が国家承認に向けた動議を支持し、国民議会が3月か4月にも承認することを確信していると述べた。

### ●ブルグレス下院議長のポルトガル訪問【2日】

ブルグレス国民議会議長はポルトガルを訪問し、ロドリゲス・ポルトガル国会議長と会談した。同会談においては、2021年のEU議長国に向けた協力及びパレスチナ国家承認問題等につき意見交換が行われ、ロドリゲス議長は、「ポルトガルは、国家承認に向けたスロベニアの努力を親近感を持ってフォローしているが、現時点において承認がパワーバランスを変更し、和平プロセスの目に見える形での進展に貢献するとは見ていない」との慎重な考えを見せた。

### ●スロベニア・ベネルクス3国首脳会合【5～6日】

スロベニア・ベネルクス3国首脳会合が開催され、ベッテル・ルクセンブルク首相、ルッテ・オランダ首相及びレンデルス・ベルギー外相との間で、EUの将来及び難民問題等につき意見交換が行われた。ツェラル首相は、難民危機に対処していく上で、EUが域外でより積極的な活動を行い、難民発生国における支援を強化すべきという点で一致したと述べた。EUの将来につき首脳らは、西バルカンの国々に門戸は開かれるべきとする一方で、EU加盟は条件を満たした場合のみ可能とすべきであるとの点で合意した。

### ●EUの新たな対西バルカン戦略に対するスロベニアの評価【6～7日】

スロベニア外務省は、欧州委が発表した、新たなEU拡大戦略において、西バルカン諸国が含まれたことは、同地域に強い政治的メッセージを送り、発展に向けた道筋を示すものとして歓迎する旨の声明を発表した。7日、パホル大統領は、欧州委が発表した新たなEU拡大戦略につき、原則、同戦略を支持するものの、スロベニア・クロアチア間の仲裁裁定の履行に関し、明確な立場が示されることを期待していたと述べた。

### ●パホル大統領のコソボ訪問【13日】

コソボを訪問したパホル大統領は、コソボ議会において開催された独立10周年記念行事において演説を行い、マジョリティ側は、少数民族が存続し、発展していくための責任を負っているとして、セルビア系少数民族の保護を訴えた。同大統領は、自分は、アルバニア系、セルビア系及び全ての少数民族の友人としてコソボを訪問したと述べ、4月にスコピエで開催予定のブルドー・ブリウニ・プロセス首脳会合は、西バルカン地域のEU加盟に向けた展望を強化していくための大きなステップとなろうとの考えを示した。

### ●経済開発・技術大臣のオーストラリア訪問【14日】

オーストラリアを訪問したポチヴァルシェク経済開発・技術大臣は、シオボ貿易投資大臣と会談し、二国間の投資促進につき意見交換を行った。ポチヴァルシェク大臣は、両国が協力可能な分野としてIT、医療、環境保護、再生可能エネルギー、インフラ、教育等の分野を挙げると共に、工業製品分野も需要があることから、オーストラリア市場はスロベニア企業にとり良いビジネスチャンスを提供し得ると述べた。また、同大臣は、二重課税がオーストラリアに展開するスロベニア企業にとり足枷となっているとして、二重課税防止協定の締結を訴えた。

## スロベニアに迫る！⑥

### スロベニア企業が、日本企業と共同で、離島への無人物資輸送機を開発

1日、無人物流プラットフォーム開発を手がける、かもめや(香川県高松市)は、スロベニアのドローン製造メーカー「Airnamics」社と昨年9月から共同開発を進めていた、次世代物資輸送無人航空機「KamomeCopter」(カモメコプター)が完成し、スロベニア国内で飛行試験を開始したと発表した。



(写真:かもめや)

この無人航空機は垂直離着陸が可能な固定翼機(VTOL型)で、小規模な離島をはじめとする狭い離着陸スペースでも運用可能であり、機体内部に運搬物資を格納できる輸送専用機として、世界最大クラスの機体となる。スロベニア国内で初飛行試験を実施し、基本的な空力性能試験などを完了した。今春以降、日本国内での実験に向けて最終調整を進める。



(写真:かもめや)

翼長: 3.85m, 最大離陸重量: 29 kg(3kg貨物搭載時), 巡航速度: 100 km/h, 最大速度: 140 km/h-最大貨物積載量: 3 kg

かもめや: <https://www.kamome-air.com/>  
Airnamics: <http://www.airnamics.com/>

## ●パホル大統領の韓国訪問【19～20日】

2日間の日程で韓国への公式訪問を開始したパホル大統領は、文在寅・韓国大統領等との間で会談を行い、北朝鮮情勢、二国間経済関係を中心に意見交換を行なった。パホル大統領は、韓国は中欧において経済パートナーを探しており、両国は、コペル港が韓国と中欧を結ぶ最短の開運ルートであることを認識していると述べた。また、パホル大統領は、公式招待を受けた理由として「文在寅大統領は、紛争の平和解決や融和に向けた自分の努力を認識しているためであろう」と述べた。

平昌五輪における韓国による対北朝鮮外交につき同大統領は、「文在寅大統領が、北朝鮮との対話を行うのはリスクだが、合理的な決定である。スロベニアを含む、平和を愛する国々は文在寅大統領の成功を祈っている。他方で、北朝鮮からの魅力的な発言に対し、我々はナイーブになるべきではない」と述べた。

また、19日、コパチュ＝ムラク労働・家族・社会問題・機会均等大臣は、韓国外相との間で社会保障協定に署名した。



(ラヴロフ外相のスロベニア訪問, 写真: Delo)

## ●ラブロフ外相のスロベニア訪問【21日】

エリヤヴェツ外相は、スロベニアを訪問したラブロフ・ロシア外相と会談した。エリヤヴェツ外相は、「スロベニアはEU及びNATOによるロシアとの対話を支持している」との考えを示したのに対し、ラブロフ外相は、「スロベニアは、経済的利益が大きいと判断した国々と協力を進めてきており、重層的な関係構築を提唱している」として評価した。

また、両国は、マリボル市における第二次大戦に関する国際研究センターの建設に向けた覚書(MOU)に署名した。

国際情勢につきラブロフ外相は、「西側諸国が、ロシアとの関係断絶を、西バルカン諸国や旧ソ連諸国との間での協力の前提条件としていることを批判し、

かかるアプローチがウクライナ危機発生の原因である」として批判した。

### ●オーストラリア外相のスロベニア訪問【23日】

オーストラリア外相としては初めてスロベニアを訪問中のビショップ外相は、エリヤヴェツ外相と会談し、国連人権理事会における協力及び国際情勢を中心に意見交換を行った。ビショップ外相は、オーストラリアの人権政策は、男女平等、発言・表現の自由、及び、少数民族保護等に重点を置いているとして、スロベニア議長国の下で、人権理事会の機能向上に必要な改革が行われることに期待を表明した。エリヤヴェツ外相は、ビショップ外相の今次訪問は、二国間関係強化の最初のステップとなると述べ、乳製品の輸入等の貿易拡大に期待を表明した。

### 【スロベニア・クロアチア間国境線画定問題】

#### ●ツェラル首相、ユンカー欧州委員長の中立的発言を批判【6～7日】

ツェラル首相は、ユンカー欧州委委員長が、欧州議会において「スロベニア・クロアチア間の国境線画定問題は、二国間問題であるが、EUの問題でもあり、速やかに解決されるべき」と発言したのに対し、「本件問題において二国間の枠組みは最早適用されず、スロベニア政府は、仲裁裁定の履行を進める上で、要すれば法的手段を執る用意がある」との立場を強調した。

また、同首相は、7日、「同委員長の政治的発言は、複数の機会に表明されている仲裁裁定の履行を支持するという欧州委の明確な立場を変更するものではない」と述べた。また、同首相は、スロベニアが、本件問題の解決に向けた欧州委の支援を受け入れていないとする同委員長の主張を否定した。

#### ●エリヤヴェツ外相、クロアチアが抱える国境問題が西バルカン拡大を遅延させると牽制【6～7日】

EU非公式外相会合出席のためブルガリアを訪問中のエリヤヴェツ外相は、最近発表された欧州委の対西バルカン戦略に関し、2025年迄にEUが西バルカン地域に拡大するとは考えられないとの考えを示した。同外相は、その理由として、クロアチアがEU加盟候補国との間で、多くの未解決の国境問題を抱えていることを挙げ、「かかる目標は現実的ではない。スロベニアはクロアチアとの間で国境問題の解決に向け20年以上も交渉をしてきた」と述べた。

#### ●ツェラル首相、欧州司法裁判所におけるクロアチア提訴を警告【23日、28日】

23日、ツェラル首相は、クロアチアとの間の国境線画定問題に関し、スロベニア政府が近日中に欧州司法裁判所に対し、クロアチアを提訴するとの考えを示した。同首相は、「我々は、欧州委が独自に必要な措置を執ることを期待しているが、もしそうならなければ、自ら対応することとなる」旨述べた。また、エリヤヴェツ外相は、全ての訴訟内容を説明した欧州委に対する書簡の準備既に出来ているとして、書簡の提出日については首相が決定すると述べた。

28日、ツェラル首相は、欧州委に対する書簡発出につき、国民議会外交政策委員会に付託する前に、3月1日の閣議で審議することを決定した。政府は、同委員会の承認が得られれば、書簡を欧州委に送付することとなる。同書簡は、リスボン条約第259条に基づくものであり、欧州委はスロベニアの提訴内容を支持するか否か3ヶ月以内に決定することとなる。仮に、欧州委が提訴内容を支持しないか、または、立場を表明しない場合には、スロベニアが独自で欧州司法裁判所に提訴することとなる。

## 経済

#### ●スロベニアでの「Uber」導入に向けた動き【1日】

インフラ省は、米の自動車配車サービス「Uber」のスロベニアへの展開を可能とする道路輸送法改正案の内容を公表した。同改正案では、旅客輸送のカテゴリーとして新たに「運転手付きレンタカー」を導入する。インフラ省は、新たなサービスは、既存のタクシー会社の競合相手となると認めたとした上で、法改正によりタクシー分野での規制緩和を同時に行い、タクシー会社に対する事業ライセンス発給の権限を中央政府から完全に地方自治体に移管することにより、健全な競争を促すとしている。

#### ●下院外交委員会、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業におけるハンガリーとの交渉開始を承認【6日】

6日、国民議会外交政策委員会は、コペル～ディヴァチャ間第2鉄道路線建設事業におけるハンガリーによる資本参加につき協議を行い、ハンガリーとの交渉開始を求める政府の動議を支持した。他方で、本件動議を支持したのは、与党現代中央党(SMC)所属議員のみであった。レーベン・インフラ省副大臣は、今次決議の内容をハンガリー大使館に通報し、第一回交渉を近日中に実施するとの方針を示した。

●欧州委、政府統計局、2017年の経済成長率を上方修正【7日、28日】

7日、欧州委員会は、冬期経済観測を発表し、2017年のスロベニアの経済成長率を4.9%とし、秋期経済観測から0.2%上方修正した。また、欧州委は、2018年及び2019年の経済成長率予測につき、それぞれ4.2%及び3.5%とした。インフレ率については、昨年2017年は1.6%、2018年及び2019年の予測は、それぞれ1.8%及び2%とし、EUの平均を上回ると予測している。

28日、政府統計局は、2017年の実質経済成長率を5%に上方修正した。本件上方修正は、2017年の輸出が対前年比で10.6%増と、ほぼ倍増したことによるものであり、雇用者総数も98万6000人と、2008年以来、最高の数値を記録した。

●政府、外国人労働者の雇用簡素化に向けた法改正を実施【7日】

スロベニア政府は、外国人労働者の雇用に関する手続を改正するために、外国人雇用法修正案を採択した。同法改正により、外国人労働者が雇用条件を満たしていることを国家雇用局に対して証明するための手続が簡素化・迅速化されることとなる。また、同法改正により、高い技能を持った外国人労働者に対し、雇用者は、最低でもスロベニアの平均賃金の水準を支払うことが必要となる。

●2017年の工業生産高、輸出増額、前年比で大幅増加【9日】

統計局の発表によると、2017年の工業生産高は前年比8.7%増加した。内訳としては、鉱業分野における生産量は3.4%、電気・ガス・蒸気等の生産量は1.8%、工業セクター企業の売上高は9.7%の増加となった。

また、2017年の輸出総額は、前年比13.1%増加し、282.5億ユーロ、輸入総額は前年比14.2%増加の275億ユーロの増加を記録した。2014年以降、対外黒字が続いている。内訳としては、EU加盟国が輸出先の76.7%、輸入元の80%を占めている。輸出先の国としては、第1位がドイツ(20.4%)、続いてイタリア(11.5%)、クロアチア(10.7%)、オーストリア(7.6%)、フランス(4.4%)が上位に入っている。輸入元の国の順位も輸出先と同様。セクター別では、自動車業界が輸出の大半を占めており、続いて電気機械及び器具が多かった。

スロベニアに迫る！◎

ナショナルジオ誌、ジュリアン・アルプスのハイキングを世界で最もロマンチックな冒険旅行の一つに選出

12日、米「ナショナルジオグラフィック」誌は、「世界で最もロマンチックな冒険旅行(The World's Most Romantic Adventures)」に、スロベニアのジュリアン・アルプス山脈でのハイキングを選出しました。同誌は、「ジュリアン・アルプス山脈のハイキングは、カップルにとり、日常の快適ゾーンを越え、デジタル機器のない環境で親密な会話をする絶好な機会を提供するでしょう」として、スロベニア最高峰のトリグラウ山、ロガルシュカ渓谷でのハイキング、ターコイズブルーの水のソチャ川での水泳などを推薦しています。



(ロガルシュカ渓谷, 写真: Mojaleta.si)

また、同誌は、ハイキングの後は、スロベニア西部イタリア国境に近いコバリドの有名なレストラン「ヒシャ・フランコ(Hiša Franko)」で、地元の赤ワインや、2017年の世界最優秀女性シェフに選出されたアナ・ロシュ氏が提供する美食を探求することを提案しています。「Mountain Travel Sobek」社のDaley社長は「この旅行は、地方料理やワインを堪能すると共に、数多くある山頂を征服し、知られざる街を発見する人生の解毒剤となることでしょう」と締めくくっています。



(トリグラウ山, 写真: Culture Trip)

## スロベニアに迫る！<sup>93</sup>

### 「熊とロボットが共生するコチェウイエ市」

南部のコチェウイエ市は過去数年において、スロベニアの自治体の中で最も大きな発展・飛躍を遂げたとして、2018年「Golden Rock」賞を受賞しました。スロベニアのほとんどの自治体が達成することのできなかった街の立て直しを達成したことが今回の受賞につながり、審査員により、数々の課題に直面していたにも関わらず、安川電機の新規欧州ロボット製造工場の誘致に成功したことや、若手技術者の育成、起業支援、協同組合及び循環経済の発展を促進している面が評価されました。同市は、UNESCO世界自然遺産に指定され、熊等の野生動物が多数生息する原生林でも知られており、審査員は「スロベニアがデジタル化と環境保護を融合させて未来を築くのなら、熊とロボットが共生するコチェウイエ市はそのロールモデルになるだろう」とコメントしています。



(コチェウイエ市, 写真: The Slovenia Times)

(参考: Golden Rock 賞とはスロベニアの planet GV 社による自治体の運営・管理に携わる関係者や企業等を対象とし、数ヶ月に及ぶ各自治体における研究活動の極致ともなる約 200 名の自治体関係者による年次総会にて発表される賞。同年次総会では、研究結果を元に、最も発展的な自治体の発表や現状に関する討論、グッドプラクティスの共有、及び各自治体地元製品のバザーが実施される。  
(<http://www.planetgv.si/en/zlati-kamen>))

### ●国民議会、投資促進法を採択【15日】

国民議会にて投資促進法案が可決された。同法案は、投資額4000万ユーロ以上及び雇用400人以上の投資案件、もしくは、投資額2000万円以上及び200名以上の R&D 研究投資案件を、戦略的投資案件と定める。この指定を受けた案件については政府による特別タスクフォースが設置され、同タスクフォースにより環境や建設にかかる許可申請等において調整支援などを受けられる。また、同法案では、経済成長、雇用促進及び地域開発等の公益に資する案件の誘致場所として選定された土地に関して、その土地を土地所有者から接収することができることされており、一部の議員グループや NGO 等より懸念が示されていたが、政府は、土地の接収にかかる条件を詳細に定めており、特殊なケース (exceptional cases) にのみ適用されると説明している。

### ●国民議会、公共調達法を改正【15日】

国民議会にて、公共調達法の改正が承認された。同改正により、公共調達案件において、政府や関係企業は、労働及び環境等の関連法案に違反する企業との契約を破棄することが可能となり、また、入札においては、支払責務を果たしていない企業や、ビジネス関連法において違反行為を犯した幹部のいる企業は応札不可となる。同法案の対象は、主に建設業、ホスピタリティ業、クリーニングサービス、セキュリティ及び道路・運輸セクター等。プレゾヴァル公共行政副大臣は、同法案の改正は、労働や環境に関する基本法の遵守に基づくものであると説明した。

### ●経済開発・技術省、2018年度のEU基金の公募を発表【20日】

ポチヴァルシエク経済開発・技術大臣は、本年、同省は29件の公募を通して2億6590万ユーロのEU基金を支出すると発表した。カンタルティ同省副大臣は、同EU基金の主な目的として、地域開発、産業促進、デジタル化及び国際化等を挙げた。本年は、特に開発途上地域の観光促進を含む地域開発に1億4000万ユーロ、起業家支援・技術開発に7500万ユーロ、国際化に2100万ユーロ、木工業分野に1600万ユーロ、観光促進に1300万ユーロが予定されている。地域別では、昨年は資金の大半がスロベニア中央部に拠出されたが、その他、北東部のポドラウイエ (Podravje) 及びポムリエ (Pomurje) 地域にも使用された。

### ●スロベニアの汚職指数、前年より悪化【21日】

腐敗や汚職防止分野で活動する国際NGOトランスパレンシー・インターナショナル(Transparency International, TI)は、世界の「腐敗認識指数(CPI)」2017年版を発表し、スロベニアは前年より3位落とし、180か国中34位を記録した。同記録を受けて、ドリア(Mr Vid Doria)TIスロベニア事務局長は、「スロベニアでは、2012年より目立った改善がなく、必要な法改正が先延ばしにされてきた。特に、ロビー活動、回転ドア式の人事及び内部告発者の保護等に関する規制が必要であり、また、公共財政の支出が不透明かつ非効率であることが問題である」と指摘した。なお、トップは、1位がニュージーランド、2位がデンマーク、3位がフィンランド、ノルウェー及びスイス、日本は20位だった。

### ●ツェラル首相、EUの予算水準維持を訴える【23日】

欧州理事会首脳会合に出席したツェラル首相は、2020年後のEU予算に関し、EUは、加盟国の総GDPの1%を越える開発指向かつ野心的な予算を採択する必要があると述べた。また、同首相は、スロベニアに対するEU結束基金は、スロベニアが発展していくために必要な水準を維持することが重要であると述べる一方で、長期的にはスロベニアがEU内でも最も発展した加盟国のグループに入っていくことが重要であるとの考えを示した。

## 軍事・治安

### ●スロベニアの難民受入数、EUで合意された枠の43%を達成【7日】

スロベニア政府は、EUで合意されたイタリア及びギリシャに滞留する難民の受け入れ合意に基づき、スロベニアが同合意で定められた567人のうち、これまでに244人(イタリアから72人、ギリシャから172人)を受け入れ、受入れ数は43%に達した旨発表した。

### ●内務大臣、難民の「バルカンルート」の情勢はスロベニアの治安維持に重要と発言【12日】

ジュニダル内務大臣は、国民議会情報機関監視委員会の会合において、「2017年のスロベニアへの不法入国者数は対前年比で80%増加したことを挙げ、難民の「バルカンルート」の情勢は、スロベニアの治安維持にとり重要な課題であるとの考えを示した。また、同大臣は、スロベニア政府は、国境にお

る監視を強化し、厳格な入国審査を行うとした上で、南部国境を管轄するノヴォ・メスト警察署の要員を増員したと述べた。更に、同大臣は、地元住民の反対もあるものの、南部国境に設置されたフェンスを維持するとの考えを示した。対イタリア国境については、昨今、スロベニアからイタリアへの不法入国が増加したことを受け、国境警備を強化するとの方針を示した。

### ●スロベニア軍、NATOによる戦闘準備評価に落第【26日】

NATOによる陸軍の戦闘準備評価(CREVAL)において、800名からなるスロベニア部隊が5分野のうち4分野において落第し、予定されていたレバノン及びコソボへのミッションの参加が取りやめになったことを受け、22日に解雇されたオステルマン陸軍少将(Major General Andrej Osterman)に代わり、ゲデル陸軍少将(Major General Alan Geder)が参謀総長に任命された。

国防費不足が解消されない中、ツェラル首相により芝居とも受け取られると指摘された今回の事態に関し、オステルマン陸軍少将は、「隊員は皆最善を尽くしているが、とにかくリソース不足である。給与改善、機材及び兵器の確保等、前参謀総長が実施してきた取組を引き続き推進し、スロベニア軍の名誉回復に務めたい」と抱負を述べた。なお、大統領府によると、一か月後に戦闘準備状況にかかる年次報告書が提出される予定。

## 社会・文化・スポーツ

### ●日・スロベニア両国のオリンピック委員会がパートナーシップ協定を締結【11日】

平昌オリンピック会場内のスロベニア・ハウスにて、竹田恒和会長及びボグダン・ガブロヴェッツ委員長によりパートナーシップ協定が署名された。本協定の下、両国間のスポーツ協力が更に発展するものと期待される。具体的には、日本側による柔道を始めとする武道種目におけるスロベニア人選手への指導支援、スロベニアにおけるカヤック及びボート種目の日本人選手の練習受入れ等の協力事業が含まれている。また、竹田会長は、「スロベニアはウィンター・スポーツの強国で、両国のスキー協会は既に良好な協力関係を築いている。今後は、本協定は、両国間の選手やコーチの交流を可能にするものであるため、当協会としては特に東京オリンピックに向けてスロベニア側と協力していきたい。」と述べた。

## 観光

### ●ANA, JAL, 本年夏に合計5便の直行チャーター便を運航【1日】

JTBグループの海外パッケージツアー「ルックJTB」を企画・実施するJTBワールドバケーションズは2016年、2017年に続き、本年もANAのチャーター便を利用したスロベニア及びクロアチア向けツアーを発表した。ANAは本年夏に合計4便のチャーター便を、日本国内4空港(福岡、新千歳、名古屋、成田)から運航する予定となっており、運行計画は以下の通り。

①6月23日(土)福岡発リュブリャナ着、7月1日(日)ドゥブロブニク発福岡着、②6月30日(土)新千歳発ドゥブロブニク着、7月8日(日)リュブリャナ発新千歳着、③9月22日(土)名古屋発ドゥブロブニク着、9月30日(日)リュブリャナ発名古屋着、④9月29日(土)成田発リュブリャナ着、10月7日ドゥブロブニク発成田着。

阪急交通社も、8月1日(水)関空発リュブリャナ着でJALチャーター便を利用したツアーを発表した。

### ●ポーヒン湖が2018年に訪問すべきベスト観光地の一つに選出【11日】

ブリュッセルを拠点とする非営利団体「ヨーロッパベストデスティネーション」による、2018年の訪問すべき観光地ベスト15の第10位として北西部ポーヒン湖(Lake Bohinj)が選ばれた。同団体は静けさと絶えず変化する景観を有する持続可能な観光地であり、また、持続可能な最も美しい観光地を集約するEDE Nネットワーク(European Destination of Excellence)の中でも象徴的な場所でもある旨評している。同ランキングは、観光局や観光コミュニティを含む32万人の人々への世論調査により決定された。



(ポーヒン湖, 写真: Lonely Planet)

### ●国民議会、観光促進法を採択【15日】

国民議会にて観光促進法が可決された。同法により、地方自治体は観光旅行者に対する税率の増加、及び新たな税の導入を通して、観光促進事業のための資金を確保する。具体的には、地方自治体は旅行者の滞在1泊あたり、宿泊税2.5ユーロを上限に設定することとし、また、新たに観光促進税として、宿泊税に相当する額の25%が追加で課税される。また、同法案は、ツアーガイドの訓練やガイド条件等の規制を定める他、観光開発戦略の履行のための国家レベル及び各観光地における活動内容を定める。



(冒頭挨拶を行うイングリッチ在京スロベニア大使館公使参事官, 写真: Travel Watch)

### ●スロベニア政府観光局、クロアチアと共同で日本において観光セミナーを開催【15日】

スロベニア政府観光局(STO)は、クロアチア政府観光局と合同で、東京都内のホテルにおいて「クロアチア&スロベニア観光セミナー/商談会 2018」を開催した。同セミナーでは両国の在京大使館の代表が冒頭挨拶を行い、商談会では集まった旅行業者と現地観光局などによる活発なやり取りが見られた。

マティアジュ・イングリッチ在京スロベニア大使館公使参事官は、スロベニアは「1991年に独立したばかりの若い国」と紹介した。ウナ・ソフティッチ氏は「スロベニアはベニス、ウィーン、ブタペストに囲まれた小さな国で、世界でも5番目に自然豊かな国」と紹介し、国土の60%が森に囲まれ、多くの自然公園があり、なかでもジュリアン・アルプス山脈最高峰であるトリグラウ山が知られていると述べた。また、ソフティッチ氏は、「国名に『LOVE』を持つ唯一の国で、皆さんが恋に落ちるようなおもてなしを受けられると思います」と締めくくった。

## 冬期平昌オリンピックでの スロベニア選手の成績

2月9日から25日にかけて韓国の平昌で開催された冬期オリンピックに、スロベニアは、過去最多となる71名の選手団を派遣し、銀1、銅1の2つのメダルを獲得しました。

●15日：バイアスロン20KMLレースにて、ヤコブ・ファク(Jakov Fak)選手が銀メダルを獲得し、平昌オリンピックにてスロベニアの獲得した初のメダルとなった。同選手は2010年バンクーバーオリンピックでクロアチア代表として出場した際には銅メダルを獲得しており、同選手にとって2つ目のメダルとなりました。



(ヤコブ・ファク選手, 写真: Siol.net)

●24日：スノーボーダー・ジャン・コシール(Žan Košir)選手がパラレル大回転で銅メダルを獲得。同選手にとってこれまでのオリンピックで獲得した3つ目のメダル(前回のソチ五輪では銀、銅を獲得)となり、また、今大会でスロベニアが獲得した2つ目のメダルとなりました。



(ジャン・コシール選手, 写真: Siol.net)



(クレントの衣装で応援するスロベニア人, 写真: thenational.ae)

●トップ10入りを果たしたスロベニア選手  
12日：【スキージャンプ・ノーマルヒル】ニカ・クリジュナル(Nika Križnar)選手7位  
13日：【アルペンスキー・女子複合】シュテファン・ハダリン(Štefan Hadalin)選手8位  
13日：【クロスカントリー・女子スプリント・クラシック】アナマリヤ・ランピチ(Anamarija Lampič)選手7位  
16日：【アルペンスキー・男子スーパー大回転】ボシュチャン・クリネ(Boštjan Kline)選手10位  
-17日：【クロスカントリー・女子リレー4×5km】8位(Anamarija Lampič, Katja Višnar, Alenka Čebašek, Vesna Fabjan)  
-17日：【スキージャンプ・男子ラージヒル】ペテル・プレヴツ(Peter Prevc)選手10位  
-18日：【アルペンスキー・男子大回転】ジャン・クラネツ(Žan Kranjec)選手4位  
-18日：【バイアスロン・男子15kmマススタート】ヤコブ・ファク(Jakov Fak)選手10位  
-19日：【スキージャンプ・男子団体】5位(Jernej Damjan, Anže Semenič, Tilen Bartol, Peter Prevc)  
-21日：【クロスカントリー・女子団体】6位(Alenka Čebašek, Anamarija Lampič)  
-21日：【フリースタイルスキー・男子スキークロス】フィリップ・フリサル(Filip Flisar)選手7位



(選手団を応援するパホル大統領, 写真: 公式ツイッター)

## 小さなワイン大国スロベニアのワイナリー紹介 第8回「モヴィア(Movia)」

「モヴィア(Movia)」ワイナリーは、スロベニア西部ゴリシュカ・ブルダに位置するワイナリーであり、スロベニアで最も歴史のあるワイナリーの一つです。1700年頃からワイン製造が行われていましたが、1820年に、イタリア人のドミニ(Domini)家との婚姻により、クリスタンッチ(Kristancic)家がブドウ畑を取得したことがきっかけで本格的なワイン製造が始まりました。同ワイナリーのブドウ畑は、22ヘクタールの丘陵地帯に位置しており、スロベニア(ZGP Brda)とイタリア(DOC Collio)両国に跨がっています。



(写真: Movia)

ゴリシュカ・ブルダ地域のテロワールの特徴は、日照量が豊富、温暖な地中海性気候で、ブドウはアドリア海からの暖かい海風が吹き付ける南向きの泥灰土壌の丘に作付けされており、古代からこの気候と土壌が、良質なワインを生み出してきました。

第二次大戦後にユーゴスラビア連邦の一部となった後も、同ワイナリーは家族経営のワイナリーとして製造の継続を許可され、1959年には当時のユーゴ政府により国家の儀典行事に使用される唯一のワインとして指定されました。オーナーのアレシュ・クリスタンッチ(Ales Kristancic)氏は、フランスのボルドーとブルゴーニュで近代的なワイン醸造の技法を学び、独創的なワインを製造していることで評価を受けています。また、同ワイナリーでは醸造過程で亜硫酸塩を使わない自然製法を導入し、主によく熟成された高級ワインの製造に力を入れています。

お勧めワインとしては、白では固有種「レブラ(Rebula)(伊ではRibolla)」を主体とし、ソービニオン及

びピノ・グリのキュヴェである「Veliko belo」。フレンチオークの樽で3.5年熟成されていますが、フレッシュさを保ちつつも複雑、ハーブとトロピカルフルーツを感じるフィニッシュの長いワインです。赤ではメルロを主体とし、ピノ・ノアール、カベルネ・ソービニオン、キュヴェ「Veliko Redece」。フレンチオーク樽で6年間熟成されたボルドースタイルに近いワインですが、カベルネ・フランの代わりにピノ・ノアールを使用することで独特の風味を出しています。熟成度が高く、タンニンもスムーズ、長いフィニッシュを持つワインです。



(写真: Movia)

最後にお勧めするのは、固有種レブラから作られた「Lunar」で、オレンジワインの特徴である渋みを感じつつも、木やハーブの香りが複雑且つエレガントなワインとしています。なお、オレンジワインとは、白ブドウを原料に、赤ワインの製法を用いて造られたもので、ブドウの皮や種も一緒に熟成樽に仕込み、長期間スキンコンタクトさせることで、皮由来の香りや、通常白ワインにない渋味を伴う複雑な味わいのワインになります。



(写真: Movia)

連絡先:

Movia Winery: <http://www.movia.si>

## 在スロベニア日本国大使館

電話: +386-1-200-8281 又は 8282, Fax: +386-1-251-1822, Email: [info@s2.mofa.go.jp](mailto:info@s2.mofa.go.jp)

Web: [http://www.si.emb-japan.go.jp/website\\_jp/index\\_j.html](http://www.si.emb-japan.go.jp/website_jp/index_j.html)

●本資料は、スロベニアに関心のある方であれば誰でも受け取ることができます。新たに配信を希望される方、あるいは今後配信を希望されない方は、以下のメールアドレスにご連絡ください。

[info@s2.mofa.go.jp](mailto:info@s2.mofa.go.jp)

### ★在スロベニア日本国大使館のフェイスブックもご覧ください！

スロベニアにおける日本の外交活動、文化行事のお知らせ等の情報を随時発信しております。

<https://www.facebook.com/Embassy.of.Japan.in.Slovenia>

### ★スロベニア人向けニュースレター「Living in Japan」のご紹介

当館では、毎月スロベニア人向けに日本紹介のニュースレター「Living in Japan (Življenje na Japonskem)」をスロベニア語で発信しています。今年は各都道府県に焦点を当て、各地の歴史・産業・観光・物産品等を紹介してまいります。1月号では鹿児島県を紹介致しました。このニュースレターは当館のホームページでも公開しておりますので、どうぞご覧下さい。

[http://www.si.emb-japan.go.jp/Living\\_in\\_Japan.html](http://www.si.emb-japan.go.jp/Living_in_Japan.html)

### 【領事班からのお知らせ】

●スロベニアに90日以上滞在される方は、大使館に在留届を提出願います。

(※インターネットでの提出が便利です。→ <http://www.ezairyu.mofa.go.jp/>)

●「たびレジ」をご利用ください！

「たびレジ」とは、海外に行かれる方が、旅行日程・滞在先・連絡先などを登録すると、滞在先の最新の海外安全情報や緊急事態発生時の連絡メール、また、いざという時の緊急連絡などが受け取れるシステムです。海外旅行や海外出張をされる方は、是非登録してご活用下さい。

「たびレジ」には「簡易登録」の機能もあります。これは、メールアドレスと国・地域を指定するだけで、対象国・地域の最新海外安全情報メールなどを入手できます(緊急時連絡を除く)。この「たびレジの簡易登録」も是非ご活用下さい。

(詳細は、<http://www.ezairyu.mofa.go.jp/tabireg/>)

### 【広報文化班からのお知らせ】

●TBS テレビ60周年特別企画連続ドラマ「天皇の料理番」放映中

大正・昭和時代の宮内省厨司長を務めた秋山徳蔵氏の人生を描いた、直木賞作家・杉森久英原作の『天皇の料理番』に基づくドラマです。

○放映チャンネル: TV SLO 1

○放映日時: 土曜 16:00~17:00(全12話)

詳細は、テレビ番組表: <http://4d.rtvsllo.si/program> (スロベニア語)をご覧ください。

●空手スロベニア・オープン国際大会

スロベニアにおける空手の歴史は40年を超え、現在63団体に約1500名の空手家が登録、空手人口は6000名ほどと言われており、当地では人気の高い武道です。今回のスロベニア・オープンは、世界空手連盟(WKF)ルールに基づいた国際大会で、選手は形と組手、障害者のための形の種目で競い合います。

○開催日: 2018年3月10日(土)午前9時~

○場所: Sports Hall Tri Lilije (Požnelova ulica 22, 3270 Laško)

主催: スロベニア空手連盟

※詳細は、スロベニア空手連盟ホームページ: <http://e-karate.si> (英語)をご覧ください。